



ながさき教育通信

長崎県教育庁教育政策課 電話/095-894-3314
メール/s40060@pref.nagasaki.lg.jp

長崎の教育・学校現場の今を「ととってmotto!」と「NR」で定期的にお届けします。魅力ある学校や教育に関する取り組み、熱心に子どもたちの育成に励む教員たちを紹介します。

公式 YouTube



公式YouTubeチャンネルを開設しました!ぜひチェックをお願いします!

公式 Instagram



「学校のネタ帳」をテーマに長崎の学校の話をお届けしています

子どもたちの自立に向けた

「確かな一歩」を後押し



現状と課題

2021年度、県内の不登校児童生徒数(公立小、中、高校)は2784人で過去最高となりました。不登校が長期間におよぶ児童生徒もいて、将来の社会的自立に向けた効果的な支援が課題です。

県は本年度から「未来へつなぐ『確かな一歩』推進事業」を始めました。県内の不登校児童・生徒が文化やスポーツなどの体験を通して人や社会とつながる良さを感じ、学校に再び登校するという結果だけではなく、将来の社会的自立へ向けたきっかけづくりも目標としています。

県児童生徒支援課のHPで詳しく紹介しています



プログラム

「基幹施設プログラム」と「市町独自プログラム」があります。現地でのスクールカウンセラーとの相談も可能です。

基幹施設プログラム

不登校児童生徒の支援メニューとして、県と県関連施設が連携して作成したプログラムを準備しています。

「できる」体験を積み重ね

<p>県美術館</p> <p>「ほっとミュージアムクーポン」</p> <p>本物の芸術作品を「食」とともに体験する機会を提供</p>	<p>長崎歴史文化博物館</p> <p>「スクールプログラム」</p> <p>展示物鑑賞、調べ学習、版画体験などのワークショップ</p>	<p>ミライon図書館・ 県立長崎図書館郷土資料センター</p> <p>「ミライon図書館へ行ってみよう!」 「郷土資料センターへ行ってみよう!」</p> <p>読書や調べもの、施設見学など好きなことをして過ごすプログラム。初回特典として、参加者が生まれた日の新聞コピーをプレゼント</p>	
<p>県埋蔵文化財センター (舌岐市立一支部博物館)</p> <p>「バックヤードツアー」</p> <p>普段は入ることができない博物館の裏側にある施設を見学するツアー</p>	<p>対馬博物館・ 県対馬歴史研究センター</p> <p>「対馬の歴史にふれよう!」</p> <p>博物館の展示を見学、研究センターでワークショップなど</p>	<p>国立諫早青少年自然の家</p> <p>「チョイス」 「きてみんね」</p> <p>火起こし体験、室内スポーツなどさまざまな体験活動</p>	<p>県立世知原少年自然の家</p> <p>「チャレンジ(デイ)キャンプ」</p> <p>自然体験の楽しさを体験する機会を提供(火起こし、炊飯、沢登りなど)</p>

※上記以外のプログラムについては、県児童生徒支援課のHPをご覧ください

市町独自プログラム

市町が独自に計画したプログラムで、それぞれの地域資源を活用しながら不登校児童生徒への支援を実施しています。ここでは、佐世保市の取り組みの一つを紹介します。

海きららで生き生き仲良く(佐世保)

佐世保市青少年教育センターでは7月に、小中学生計12人が同市の九十九島水族館(海きらら)を訪問しました。参加したのは、センターに開設する「あすなろ教室」や、地域のコミュニティセンターなどを活用した「サテライトあすなろ教室」を利用する子どもたち。普段は入れないバックヤードも見学しました。

生き生きとした子どもたちの姿に、同センターの松永拓真事事は「最初は緊張していた子どもたちも、体験を通して自然と仲良くなっていました。この体験が、一人でも多くの子どもが一步を踏み出すための後押しになれば」と事業の意義を話しました。



佐世保市の独自プログラムで海きららを訪れた子どもたち(佐世保市、海きらら)

Teacher's File

長崎の学校で生き生きと働く先生たちにスポットを当てます

一番の楽しみは生徒との交流

今回紹介するのは
県立五島高校の

金子絢子先生

金子先生ってどんな先生?

5年間講師を務め2020年に正式採用。今年度、初めての離島勤務に。学校や家族のサポートを支えに2児の子育てに奮闘中です。



先生のリフレッシュ方法

子どもと出かけたりおいしいものを食べたり。五島の夏が楽しみ。勤務中はコーヒーブレイクでひと息ついています。

教員を目指したきっかけは

両親も高校教員で、特に英語教員だった母の影響もあり英語が大好きでした。大学も外国語学部を選択。英語を活用できる仕事がしたいと、一般企業への就職活動もしましたが、「人と関わりたい」という思いが強かったため、高校の英語教員になることを決めました。

この仕事に就いて良かったと思うとき

毎日生徒に元気をもらっています。同じ一日は全くありません。担任を持つと忙しいですが、生徒と関わるための時間が絆をより深めてくれます。今年度は1年生を担当。みんな無邪気で元気です。生徒と積極的に交流し、喜怒哀楽を共にしながら一緒に成長していきたいです。

子育てしながらの離島勤務について

4歳と2歳の子育て中。ちょうど採用試験に受かった時に上の子を身ごもり、採用を延期してもらいました。下の子の時は10カ月の産休・育休から復職。五島へは予期しない異動でしたが、同じく高校教員の夫も共に五島での勤務となり、家族や学校の理解に支えられています。